

議事1. 前年度事業及び内部評価に対する意見

目 次

1. 熊本博物館の沿革及び現在の運営方針等	1
2. 令和6年度事業概況	5
3. 主要事業の実績及び評価	13
4. 塚原歴史民俗資料館	39

1 熊本博物館の沿革及び現在の運営方針等

(1) 沿革

参考：館報P1

昭和

旧師団司令部跡時代(1952～1960年)

昭和27年(1952年)2月4日

議会にて熊本博物館条例可決(2日)。第2館(熊本城宇土櫓)開館(4日)。

本館(第六師団司令部跡)



分館(宇土櫓)



勸業館時代(1961～1977年)

昭和36年(1961年)2月1日

熊本博物館本館(花畑町7-17)再開館。宇土櫓の分館は天守閣に移動



●
昭和

新館（現本館）時代(1978～2013年) 建築設計は黒川紀章氏

昭和53年（1978）4月1日 プラネタリウムを併設



●
平成

施設のリニューアル（2018年から現在）

平成30年（2018年）12月1日 リニューアルオープン

●
令和



熊本博物館は考古、歴史、民俗、美術工芸、地質、動物、植物、天文、理工、保存科学という分野で構成する総合博物館である。

（2）現在の運営方針（平成30年（2018年11月12日策定））

ア. 基本理念

熊本博物館リニューアルオープン後の運営方針（以下、運営方針という）は、運営や活動の充実と向上を図るため、基本となる運営方針について定められたものである。また、運営方針においては、博物館法、文化財保護法、熊本博物館条例等を踏まえつつ、来館者の立場に立った運営を目指すことを目的としている。

なお、運営に当たっては、昭和49年（1974年）に策定した基本構想の中で、目指す4つの理念を以下の通り定め、リニューアル後においても継承しながら、常設展示における全体テーマを「未来へつなぐ熊本の記憶」としている。

〈熊本博物館の4つの基本理念〉

広域情報型博物館

政令指定都市が有する中核博物館として、熊本の豊かな歴史や自然の価値を魅力的に発信するほか、収蔵資料等に限らずこれまで市民が気軽に見ることができなかった貴重な文化資料も展示し、広く情報発信していく博物館

市民開放型博物館

当館が収蔵する資料群を活用し、市民の生涯学習の場、子どもたちの興味や関心に応える教育普及活動の場となり、子どもたちをはじめ誰もが繰り返し訪れる博物館、また市民とともに活動する博物館

郷土立脚型博物館

当館の収蔵資料を通して郷土の魅力を発信し、市民の郷土学習、学術活動を支援するとともに、郷土観光・学習観光に資する博物館

人間密着型博物館

博物館が日常生活の一部にあって、人間の英知（歴史や文化の創造、自然との共生）に触れることができ、時代と市民ニーズに対応しながら、世代を超えて楽しむことのできる博物館

2 令和6年度事業概況

（1）調査・研究活動

参考：館報 P52

博物館における調査・研究活動は、資料の収集・保存・展示・教育普及活動の根幹を成すものである。当館の基本構想および理念を基に、各分野において熊本の歴史と自然および科学技術についての研究を行うとともに、次の点に留意して行った。

- その成果が市民に還元できるものであること。
- 当館の設立主旨に沿ったものであること。
- 将来、展示に活かされるものであること。
- 科学的・客観的なものであること。

令和6年度における調査研究の目標と取組や、残った課題に対する今後の方向性などについて、以下の通り整理した。

自然系

分野	目標	主な取組	課題及び今後の方向性
地質	熊本県内を中心に地質・化石の調査を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・特別展に向けた他館の種子化石標本調査。 ・美里町の砂白金調査。 ・熊本城石垣の栗石石材供給地調査協力。 	令和7年度の春季企画展に向けては、年度末に開始（R8.3月予定）することなどを踏まえ、関係機関と連携を密にしながら進めていく。
動物	熊本県内の動物分布に関する調査を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・金峰山山系及び江津湖の動物相調査。 	江津湖については、年間を通じて魚類相の調査を実施し、希少種の繁殖と分布拡大が確認できた。金峰山については、十分な調査ができたとは言えないが、市民に関心の高い場所なので定期的なモニタリングを心がけたい。
植物	熊本県内の植物分布に関する調査を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・江津湖に分布する植物の調査。 ・特別展にかかる資料調査および標本作製。 	特別展の開催およびそれに係る調査により充実させることができた標本や成果を教育・普及活動へと活用していきたい。江津湖の植物調査については、引き続き継続して行う。
理工	楽しく活動しながら自然科学の原理や技術について体験できるような体験型プログラムの開発を目指すとともに、理工分野関連の企画等について調査・研究する。	<ul style="list-style-type: none"> ・こども科学・ものづくり教室に係る科学実験や科学工作の工夫・改善。 ・学校教育支援事業に係る派遣授業プログラム集の改訂及び教材・教具等の工夫・改善。 	体験的に学ぶ機会の提供については、多様なニーズに応えるべく引き続き工夫・改善を図りながら進めていく。

人文系

分野	目標	主な取組	課題及び今後の方向性
考古	<p>・熊本市内の考古資料を中心に寄贈コレクションも調査・研究する。</p> <p>・収蔵資料の多くが未整理のため、分類・整理・資料紹介に努め、市民や研究者などが活用できるようにする。</p>	<p>・次年度以降の企画展開催準備に伴う調査・研究。</p> <p>・収蔵資料の整理・調査、資料紹介の準備。</p> <p>・金属製品等保存処理必要資料の整理・把握。</p> <p>・常設展示資料の状態確認・改善と展示替え検討。</p> <p>・収蔵考古関係文献（書籍）の整理・精査。</p>	<p>・館蔵品の再整理調査・研究を1年ごとに1課題ずつ増やしながら実施しているが、点数が多い資料群になると、洗浄等の一部業務委託等が必要であり、予算化が必要である。</p> <p>・常設展示については館蔵品以外の資料が多くあるため、上記再整理調査研究成果に基づき、館蔵品と入替の方針である。</p>
民俗	<p>館収蔵資料の整理・調査および市内民俗行事および民俗資料の調査・研究を進め、その成果を広く公表し、かつ市民をはじめとした博物館利用者が活用できるようにする。</p>	<p>・企画展にかかる精霊舟の調査・研究・公表。</p> <p>・特別展にかかる小泉八雲関連資料の調査・交渉。</p> <p>・市内祭り・年中行事の調査・研究。</p> <p>・館収蔵資料の整理・調査・公表。</p> <p>・寄贈資料受け入れに伴う諸調査。</p>	<p>・企画展および特別展にかかる調査等について十分な成果を得、一部を展覧会・論文などで公表し還元できた。</p> <p>・市内祭りや年中行事の調査、館収蔵資料の整理・調査・公表については一部に留まり、当初想定よりも進まなかった。この点、今後の課題としたい。</p>
歴史・美術工芸	<p>熊本市内および熊本博物館収蔵資料等の調査・整理・保存を行い、歴史・美術史・工芸史の観点からの研究を進め、市民や来館者への情報提供と展示活用に努める。</p>	<p>【歴史】</p> <p>・目録「田口家文書」刊行準備。</p> <p>・次年度以降特別展開催に向けた資料調査。</p> <p>・その他、寄贈資料受け入れに伴う諸調査など。</p> <p>【美術工芸】</p> <p>・収蔵品展の開催。</p> <p>江島栄次郎生人形（収蔵品）の悉皆調査。</p> <p>・次年度以降特別展開催に向けた資料調査（安本亀八）。</p> <p>・その他、収蔵品の関連資料調査。</p>	<p>【歴史】 来年度の特別展（江戸の遊び絵づくし）の準備に加え、後年度の展覧会（西南戦争展（仮））準備などを進めた。</p> <p>また、令和6年9月に閉館した神風連資料館旧蔵資料を受入れたため、資料整理も開始した。令和8年度には資料目録を刊行すべく作業を進めている。</p> <p>【美術工芸】</p> <p>・引き続き収蔵資料の調査などを行いながら、次年度企画展開催の準備を行う。</p>
保存科学	<p>館内環境を調査し、展示品や収蔵品にとって適切な状態を保つことを目的とする。また、資料の修復などについて担当学芸員と相談のうえ、適切な処置の方法を考える。</p>	<p>・館内温湿度や空気質等を測定するほか、展示室や収蔵庫内の環境と文化財害虫の有無を継続調査。</p> <p>・年間を通じて月ごとの動向や傾向を分析し、館内IPMの改善を図る。</p>	<p>継続した調査結果を分析すると、年度を重ねるごとに保存環境が安定化している。館全体でみたIPMの体制作りを今後検討していきたい。</p>

（2）資料の収集・保存

参考：館報 P54～57

収蔵資料点数（令和7年（2025）3月31日現在※）

地質	動物	植物	理工	考古	歴史 美術工芸	民俗	総計
21,071	70,262	17,210	137	10,226	18,398	16,989	154,293

※上記は登録済みの点数であり、未整理・未登録の資料は含まない。

〔参考〕各年度末現在 収蔵資料点数の推移

	地質	動物	植物	理工	考古	歴史 美術工芸	民俗	総計
R6	21,003	68,590	17,132	137	10,226	18,057	16,619	151,764
R5	20,968	67,816	17,048	137	10,226	17,401	16,701	150,297
R4	20,846	65,833	16,964	137	10,230	17,121	14,449	145,580
R3	20,233	63,232	16,897	137	10,224	18,773	13,823	143,319

方針	<p>・当館における資料収集は、採集・寄贈・交換・購入等の方法により、本市および当館の事業展開において必要不可欠で貴重なものの収集を基本とする。対象は、採集日・採集場所・時代等の来歴のデータが明確で、当館の調査研究、展示において重要と判断されるものを基本として収集していくものとする。</p> <p>・また、保存管理については、新規に収集した資料は処置室で保管し、燻蒸した後に各収蔵庫に収める。館内に収蔵された資料管理は薬剤だけに頼らず、日常的な環境管理を行うことで有害生物被害を低減させる総合的有害生物管理（IPM）の考え方を基本とし、収蔵庫室内での定期的な燻蒸は行わない。</p>
主な取組	<p>・資料収集については、各分野で収集と整理方針を作成している。点数は増加傾向にある一方で、収蔵庫スペースに限りがあることから、既存資料の収蔵方法を改めるなど再整理を行っている。</p> <p>・展示室及び収蔵庫の保存管理についてはIPMの考え方を基本としているため、日常的な温湿度管理や粘着トラップによる文化財害虫の侵入経路を観察しており、効率的な予防に努めている。また、カビの殺菌に効果のある燻蒸剤（エキヒュームS）が使用できなくなったことから、カビなどに多く含有するATP(アデノシン三リン酸)の蛍光量を測定し、迅速にカビの処理が行えるように保存管理を実施した。</p>
課題及び今後の方向性	<p>・資料収集については、引き続き整理方針に基づき適正な収蔵スペースを確保していく。他課が管理する収蔵庫に保存する資料については、本館敷地内での一括管理体制の構築を目指す。</p> <p>・燻蒸によるカビの殺菌ができなくなることから、より一層館内のカビ発生を抑制しなければならない。新規収蔵品の保管及び借用資料の展示等においては、資料の状態確認の徹底と保管環境の維持も含め館内体制の整備を検討する。</p>

(3) 運営

参考：館報 P9

ア. 開館日等

開館日数：307日（8/29，30は台風のため臨時休館）

開館時間：9：00～17：00（入場は16：30まで）

休館日：月曜日が休館（祝日の場合は翌日）

12月29日～1月3日

イ. 人員体制

令和6年（2024年）4月1日時点 25人

〔本館22人、塚原歴史民俗資料館3人〕

館長	学芸班	人文系	本館	学芸員6人			
			塚原歴史民俗資料館	学芸員1人	主任主事1人 (再任用)	会計年度任用職員1人	
		自然系	本館	学芸員3人	会計年度任用職員5人 (プラネタリウム)		
			博学連携チーム	本館	研究員1人	主任主事2人(再任用)	
	総務企画班	本館	事務職4人				

〔参考〕令和7年（2025年）4月1日時点 24人

〔本館21人（うち県派遣1人）、塚原歴史民俗資料館3人〕

館長	副館長	学芸班	人文系	本館	学芸員5人（うち県派遣1人）		
				塚原歴史民俗資料館	学芸員1人	主任主事1人 (再任用)	会計年度任用職員1人
		教育連携班	自然系	本館	研究員1人	学芸員3人	主任主事1人 (再任用)
				本館	研究員1人	会計年度任用職員5人 (プラネタリウム)	
		総務企画班	本館	事務職3人			

ウ. 入場者数

- ・総入場者数は99,824人。（対前年度比▲11,320人、▲10.2%）
- ・夏季特別展の観覧者数の減▲24,883人（41,261⇒16,378）、プラネタリウムの観覧者数増+9,575人（43,613⇒53,188）などが主な要因。
- ・月別にみると、8月の来館者が全体の2割を超え、8月を含む第2四半期では4割を超える。
- ・コロナ禍後、特別展観覧者により年度によって差異がある。

（単位：人）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	区分別割合
一般	3,408	3,988	3,995	6,443	11,780	4,439	4,049	4,068	3,266	2,980	3,963	4,182	56,561	56.6%
高校・大学生	139	303	230	374	701	343	391	263	343	192	290	394	3,963	4.0%
小・中学生	900	1,152	1,117	3,254	7,026	1,898	2,750	2,905	1,008	1,126	1,969	1,446	26,551	26.6%
未就学児	454	596	2,779	2,593	2,323	917	437	541	284	510	683	632	12,749	12.8%
月別合計	4,901	6,039	8,121	12,664	21,830	7,597	7,627	7,777	4,901	4,808	6,905	6,654	99,824	100.0%
月別割合	4.9%	6.0%	8.1%	12.7%	21.9%	7.6%	7.6%	7.8%	4.9%	4.8%	6.9%	6.7%		
四半期別割合	19.1%			42.2%			20.3%			18.4%				

〔参考1〕 令和5年度総入場者数

（単位：人）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	区分別割合
一般	3,016	4,055	3,348	8,157	17,668	5,787	3,212	3,860	2,343	2,340	4,858	3,926	62,570	56.3%
高校・大学生	139	228	190	725	1,840	567	174	165	253	128	260	323	4,992	4.5%
小・中学生	965	1,859	1,060	3,905	9,391	2,441	2,095	2,961	1,024	1,093	2,585	1,258	30,637	27.6%
未就学児	353	705	2,226	2,277	2,823	1,166	508	511	395	412	1,005	564	12,945	11.6%
月別合計	4,473	6,847	6,824	15,064	31,722	9,961	5,989	7,497	4,015	3,973	8,708	6,071	111,144	100.0%
月別割合	4.0%	6.2%	6.1%	13.6%	28.5%	9.0%	5.4%	6.7%	3.6%	3.6%	7.8%	5.5%		
四半期別割合	16.3%			51.1%			15.7%			16.9%				

〔参考2〕 リニューアル後の総入場者数と特別展観覧者数

（単位：人）

	H30 (2018)	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)
総入場者	37,477	86,940	41,048	60,772	93,239	111,144	99,824
特別展観覧者	-	17,126	-	8,417	32,795	41,261	16,378

エ. 総入場者数うちのうち、プラネタリウム観覧者数

- ・総観覧者数は53,188人。（対前年度比+9,575人、+22.0%）
- ・夏季を中心に人気アニメを活用した内容を投映したことなどにより、リニューアル後、過去最多の観覧者数となった。
- ・若年層ほどプラネタリウム観覧者が多い。

（単位：人）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	区分別割合
一般	1,206	1,477	2,063	3,609	6,203	2,177	1,494	1,362	1,048	1,076	1,462	1,463	24,640	46.3%
高校・大学生	94	161	176	214	404	241	230	156	156	138	138	242	2,350	4.4%
中学生以下	791	1,111	3,217	4,593	6,418	1,965	1,741	1,454	847	1,020	1,574	1,467	26,198	49.3%
月別合計	2,091	2,749	5,456	8,416	13,025	4,383	3,465	2,972	2,051	2,234	3,174	3,172	53,188	100.0%
月別割合	3.9%	5.2%	10.3%	15.8%	24.5%	8.2%	6.5%	5.6%	3.9%	4.2%	6.0%	6.0%		
四半期別割合	19.4%			48.5%			16.0%			16.1%				

（参考）総入場者に占めるプラネタリウム観覧者の割合

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
一般	35.4%	37.0%	51.6%	56.0%	52.7%	49.0%	36.9%	33.5%	32.1%	36.1%	36.9%	35.0%	43.6%
高校・大学生	67.6%	53.1%	76.5%	57.2%	57.6%	70.3%	58.8%	59.3%	45.5%	71.9%	47.6%	61.4%	59.3%
中学生以下	58.4%	63.6%	82.6%	78.6%	68.6%	69.8%	54.6%	42.2%	65.6%	62.3%	59.4%	70.6%	66.7%
月別合計	42.7%	45.5%	67.2%	66.5%	59.7%	57.7%	45.4%	38.2%	41.8%	46.5%	46.0%	47.7%	53.3%

〔参考1〕令和5年度総入場者数の中のうち、プラネタリウム観覧者数

（単位：人）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	区分別割合
一般	1,194	1,614	1,671	2,793	4,615	1,546	1,237	1,120	732	882	1,647	1,222	20,273	46.5%
高校・大学生	85	136	105	250	457	211	151	104	87	94	182	215	2,077	4.8%
中学生以下	920	1,150	2,625	3,415	4,416	1,471	1,376	1,393	821	1,000	1,516	1,160	21,263	48.7%
月別合計	2,199	2,900	4,401	6,458	9,488	3,228	2,764	2,617	1,640	1,976	3,345	2,597	43,613	100.0%
月別割合	5.0%	6.6%	10.1%	14.8%	21.8%	7.4%	6.3%	6.0%	3.8%	4.5%	7.7%	6.0%		
四半期別割合	21.8%			44.0%			16.1%			18.1%				

〔参考2〕リニューアル後の総入場者数とプラネタリウム観覧者数

（単位：人）

	H30 (2018)	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)
総入場者	37,477	86,940	41,048	60,772	93,239	111,144	99,824
プラネ観覧者	24,601	46,167	22,437	37,119	45,589	43,613	53,188

オ. 運営に係る歳入歳出決算

- ① 支出総額は2.7億円（うち職員人件費1.3億、事業費1.4億円）
- ② 一方、①をまかなう入場料等の収入は3千3百万円。
- ③ 残りの財源2.4億円は、市税等でまかなわれた。

(単位：千円)

		R6年度 A	R5年度 B	増減 A-B	(参考) R7当初予算
① 支出合計		272,232	289,632	▲ 17,400	313,546
職員人件費		131,172	124,329	6,843	126,440
事業費		141,060	165,303	▲ 24,243	187,106
1	子ども科学・ものづくり経費	883	1,023	▲ 140	1,200
2	子ども自然学び教室経費	434	558	▲ 124	470
3	特別展等開催経費	16,571	19,288	▲ 2,717	29,800
4	博物館展示管理経費	24,846	26,102	▲ 1,256	23,800
5	博物館展示整備経費	627	738	▲ 111	660
6	一般管理経費	83,784	81,949	1,835	85,969
7	博物館情報システム関係経費	6,273	6,371	▲ 98	6,127
8	城南町歴史民俗資料館管理経費	7,642	9,664	▲ 2,022	7,880
9	博物館施設整備経費		19,266	▲ 19,266	31,200
10	博物館消火器更新経費		344	▲ 344	
② 収入合計		33,304	37,255	▲ 3,951	84,452
国庫補助金		261	341	▲ 80	400
1	子ども科学・ものづくり経費充当	261	341	▲ 80	400
博物館使用料		21,507	18,792	2,715	54,102
1	本館分	21,123	18,399	2,724	53,724
2	塚原民俗資料館分	309	236	73	300
3	売店敷地等使用料	75	157	▲ 82	78
物品売払収入		5,390	6,581	▲ 1,191	7,808
1	本館分	5,384	6,574	▲ 1,190	7,808
2	塚原民俗資料館分	6	7	▲ 1	0
その他の収入		6,146	11,541	▲ 5,395	22,142
1	電気代	310	200	110	200
2	ケーブル工事負担金		1,014	▲ 1,014	
3	特別展共催からの負担金	5,836	10,327	▲ 4,491	10,042
4	建設事業に充当する地方債			0	11,900
②-① 差引一般財源（税の投入額）		238,928	252,377	▲ 13,449	229,094

[参考] 博物館入場料 大人：400円、高・大生：300円、小・中学生：200円

プラネタリウム観覧料 大人：200円、高・大生：150円、中学生以下：100円

3. 主要事業の実績及び評価

1	特別展及び企画展等の開催	館報P13-16
----------	---------------------	-----------------

取組方針	<p>・展示活動については、常設展示に加え、年間を通して計画的に、特別展・企画展を開催し、当館活動の柱とする。開催に当たっては鑑賞者用ガイドブック、図録、解説シートなどを作成・発行し、来館者の理解を深める取組を行う</p> <p>・また、重要文化財等の展示も行うなどし、これまで市民が鑑賞することができなかった展示会を企画し開催する</p>
------	--

(1) 特別展

植 物	<p>事業名：旅するタネ</p> <p>期 間：7月13日（土）～9月1日（日）</p> <p>主 催：旅するタネ実行委員会（熊本博物館/KAB熊本朝日放送）</p> <p>内 容：身近な植物や海外の貴重な種子標本、種子の化石標本などを展示し、種子散布の多様性について紹介。</p> <p>来場者：16,378名</p>
-----	--

(2) 企画展

保存科学	<p>事業名：資料保存の世界 – 未来へつなぐ文化財の裏側 –</p> <p>期 間：（前年度からの継続）3月9日（土）～5月12日（日）</p> <p>内 容：保存という観点から文化財に焦点をあてた展示。科学分析や処理方法、文化財害虫などを紹介。</p>
美術工芸	<p>事業名：収蔵品展「くまはくコレクション かがやけ！熊本の刀と絵画」</p> <p>期 間：10月4日（金）～12月22日（日）</p> <p>内 容：これまで調査・整理が完了した当館収蔵の刀剣類と絵画を一堂に公開。前期展示では、本妙寺より重要文化財「短刀銘光世」を借用して公開したほか、島田美術館・玉名市立歴史博物館ころろピア・島原城と共に同田貫の展示をめぐる4館連携スタンプラリーを実施した。</p>
民 俗	<p>事業名：送る – 熊本県下の精霊流し –</p> <p>期 間：3月25日（火）～6月1日（日）（R7へ継続）</p> <p>内 容：熊本県内の精霊流しを調査し、熊本県下の精霊流しを紹介する</p>

(3) 共催展

考 古	<p>事業名：熊本市遺跡発掘速報展2024</p> <p>期 間：1月11日（土）～3月9日（日）</p> <p>主 催：熊本市文化財課、熊本博物館</p> <p>内 容：昨年の発掘調査及び整理作業を行った市内遺跡の調査成果について出土遺物や写真パネルの展示を行った。なお、「令和6年度 熊本博物館考古資料蔵出し 極東アジアの瓦コレクション」を同時展示。</p>
-----	---

当館の評価

A:目標以上に実施できた B:概ね実施できた C:課題が残った D:目標を大きく下回った

館としての総合評価	
B	特別展の来館者は昨年度を下回ったが、展覧会全体として、自然系、人文系のバランスを図りながら、総合博物館としての強みを生かし実施できた。
担当者による個別評価	
(1) 特別展「旅するタネ」 種子の散布方法をメインテーマとし、種子や果実の多様性を紹介した。 収蔵資料に加え、借用資料も多数展示することで外国産の貴重な標本や珍しい種子などを観覧できる機会とした。夏休み期間の開催であったため、ハンズオンや体験型の展示も多数取り入れ、タブレットを利用して行うワークシートの提供も実施した。また、展示内容等を紹介する図録（展示ガイドブック）を作成した。開催終了後も受付にて販売をしている。	
(2) 企画展 【保存科学】資料保存の世界 – 未来へつなぐ文化財の裏側 – 普段見ることのできない文化財の内部情報や、劣化による変化や原因などを公表。比較しやすいよう食害された文化財と食害した文化財害虫を並べて展示した。また、「文化財大好き昆虫図鑑」を作成し、啓発も実施した。 【民俗】送る – 熊本県下の精霊流し – ・行事そのものを感じられるよう精霊舟を実物大で再現するなど展示手法を工夫し、調査地（特に川尻）に届くよう回覧板を使用するなど、新たな手段も含め、積極的に広報を展開した。 ・展覧会図録も完売し、学術的な成果として査読誌に投稿論文が掲載された。	
(3) 共催展 熊本市遺跡発掘速報展2024 ・当館収蔵資料の再整理調査・研究成果の一部を公表。単なる考古資料としての展示ではなく、一個人のコレクション（資料群）という観点も考慮し、多数の朝鮮瓦を展示・公開した。展示年度には予算がなかったために、記録としてのパンフレット等は刊行・配布できなかったが、今年度内にその内容の一部をパンフレット化して、資料の存在について広く市民・研究者に普及・啓発を試みる予定である。	

委員の総合評価	
B	多様なテーマで実施され、展示内容はいずれも工夫が凝らされており評価できる。一方で、来館者は前年度を下回る結果となっており、広報や集客面に関して改善の余地がある。
各委員の意見や要望/質問	
【意見や要望】 (池上委員/学識者/地質) ①多様な特別展・企画展が開催されており、住民の教養と文化を高める機会を創出している。企画展については、実際の来場者数のカウントは難しいかもしれないが、開催期間中の入館者数を成果として示しても良いのではないかと。	

【意見や要望】 つづき

（坂本委員/学識者/動物）

②特別展のアンケートによると良好な評価が9割を超えており、素晴らしい結果だと思われる。見るだけでなく、体験もできる展示を今後も期待したい。

「熊本県下の精霊流し」で熊本市以外を紹介する場合は、対象の市町村の広報紙にお知らせを載せて周知すると、より有意義であり来館者も増えるのではないかと思います。

（高宮委員/学識者/植物）

③特別展の「旅するタネ」を見学しました。大変良く計画された展示で、子供たちが内容を理解できるよう、様々な工夫が盛り込まれていて感心させられました。食卓で出会うタネや身近なタネなど、展示内容が毎日身の回りで継続確認できるのも良いアイデアだったと思います。アンケートを取られていたようなので、報告では内容の概略ではなく詳しい数字や自由記入などを詳しく纏められると良かったかと感じました。

（中西委員/学識者/美術工芸）

④特別展・企画展・共催展を通して年度内の展示活動については、分野の偏りがないように工夫されているように見え、内容に関してB：概ね実施できた「特別展の来館者は昨年度を下回ったが、展覧会全体として、自然系、人文系のバランスを図りながら、総合博物館としての強みを生かし実施できた。」という総合評価は妥当かと思えます。また、いくつかの展覧会を拝見しましたが、学芸員の専門知識を生かしながら、展示スペースの制約（天井の高さ、広さ）がある中での奮闘が感じられ、今後も制約を強みにかえる展示に期待したいと思います。本項目の「担当者による個別評価（2）企画展」の美術工芸に関する記述がないのが不思議に感じられました。

（秋元委員/学校教育）

⑤特別展「旅するタネ」につきましては、夏休み期間中に開催されたこともあり、児童の自由研究等に活用できる内容であったことから、学校教育の現場としても大変有意義であり、感謝申し上げます。

また、企画展「くまはくコレクション かがやけ！熊本の刀と絵画」においては、近年、日本刀への関心が高まっていることもあり、多くの来館者を迎えられたことは、企画の方向性が来館者のニーズに合致していたものと考えます。特に関連行事「実演！刀の銘切」では、50名もの参加者があったとのことで、企画内容の魅力が十分に伝わった結果であると感じております。

（星牟禮委員/学校教育）

⑥広報のチラシは費用が少し高くてもカラーの方が来館者が増えると思う。

精霊流しの企画展は川尻などで実際に精霊流しが行われる8月のお盆の時期くらいまで行えるようにしても良いのではないかと。

<p>（松下委員/社会教育）</p> <p>⑦横の連携、島田美術館としては、同田貫展は相乗効果でよかったと思います。今後も同様の取り組みがなされることを望みます。</p> <p>外国の人向けに、丁寧な展示物説明が何か国語か、必要と思われます。島田美術館に足りないところでもあり、ノウハウなど、市博がリード、指導していただければありがたいところです。展覧会ごとの入場者数が、夏季特別展のみ記載されています。他の展覧会はどうかだったのでしょか。</p>
<p>（山瀬委員/社会教育）</p> <p>⑧同田貫の展示をめぐる4館連携ラリーのような取り組みは、近年の刀剣ブームとも相まって文化財に対する興味関心を喚起するうえでよい取り組みであり、引き続き、他館と連携したこうした取り組みがあることが望ましい。</p>
<p>（小原委員/一般公募）</p> <p>⑨博物館の役割と企画の方向性に関する提言</p> <p>(1)くまモンを起用した子どもたち主体のSNS動画制作（TikTok/YouTube）を公式活動として推進すべき。記憶の継承を現代の流行に乗せ、子どもたちが発信者となることで、若年層の来館を促す。</p> <p>(2)過去の災害の記憶を扱う展示（熊本地震など）を『未来の命を守る教訓』として扱い、防災知識をアップデートする場として活用すべき。記憶を単なる記録でなく未来の安全に直結させ、博物館の社会的役割を明確にする。</p> <p>(3)堅い歴史資料に、くまモンが現代の視点で感想を添える「コメントパネル」を導入し、展示の敷居を意図的に下げるべき。記憶とキャラクターのギャップで話題性を生み、非博物館利用者の来館を促す。</p>
<p>（小原委員/一般公募）</p> <p>⑩入館者増加と体験価値向上のための具体的アクション</p> <p>(1)子どもたちが『未来の熊本の街並み』をデザインし、それをVRやプロジェクションマッピングで展示する「未来の記憶創造ラボ」を常設してほしい。過去の記憶を元に未来を創る、最高レベルの体験価値を提供し、リピート来館を促す。</p> <p>(2)「大人のための教養ナイトセミナー」を月1回開催し、地元企業と連携したプレミアムな交流・学習体験を提供してほしい記憶を深く学ぶ場に「社交」の要素を加え、知的好奇心旺盛な大人層をリピーター化する。</p> <p>(3)市民から個人の大切な記憶（写真・手紙）を収集し、子どもたちとくまモンが協力して博物館で公式に展示する企画を恒例化してほしい。公的な記憶と私的な記憶を融合させ、市民の愛着とコミュニティ全体を巻き込んだ集客を実現する。</p> <p>「ここでしか手に入らない」くまモンが博物館資料を持った限定コラボグッズを開発・販売し、ミュージアムショップを強化してほしい。くまモンの強力な集客力を、展示物への関心と結びつける最も分かりやすいフックとする。</p>

<p>【質問】</p> <p>（小原委員/一般公募）</p> <p>⑫企画実行と持続可能性に関する確認事項</p> <p>(1)「こども記念企画展」やツアーコンダクター体験で、子どもたちの創造性や企画権を最大限に尊重するため、博物館側の介入をどこまで抑えるかという明確なルールを設けますか？</p> <p>【事務局回答】 こども達の年齢や発達の程度に応じ、その意見を聴き政策に反映することは、関係法令に規定されています。こども達のニーズをよりの確に踏まえ、事業がより良いものとなることになるばかりか、その経験は、社会の一員としての主体性を高めることにもつながります。このことは本市の教育理念とも方向性を同じくするものです。 お尋ねのルール設定については、様々な事業の企画や実施段階で、当館が法令の規定に基づき運営する熊本市立の社会教育施設であることから、予算や人員などを踏まえた実現可能性や、文化財を保存し活用するという施設の特性などを考慮し、検討し決定するものです。</p>
<p>(2)「未来へつなぐ記憶」というテーマの達成度を測るための、具体的かつ長期的なKPI（重要業績評価指標）、例えば「未来関連企画への若年層の来館率」を設けていますか？</p> <p>【事務局回答】 事業実施に係る成果指標について、他の委員からもご指摘をいただいております。資料3にて課題として挙げております通り、全体及び事業ごとの成果指標を設定していません。 この点、今回の運営方針見直しの中で、項目ごとに、また、可能な限り定量的な指標を用いて設定することを念頭に置いています。</p>
<p>(3)過去の災害や環境変化の記録を、未来の課題解決に役立てるため、地元大学や企業と連携し、データを外部公開・共同活用するための具体的な計画はありますか？</p> <p>【事務局回答】 お尋ねの計画について、現時点ではありません。</p>
<p>（鈴木委員/学識者/民俗）</p> <p>⑬保存科学の企画展の中で、特に来場者の反響が大きかった部分があれば教えていただきたく思います。</p> <p>【事務局回答】 全国的に見ても保存科学をメインとした展示会は少ないためか、遠方からの来館や問い合わせを多数受けたこと。また、食害された資料と食害した虫の標本の展示に対し、自宅での文化財の管理方法を見直すきっかけになったとの感想が多数寄せられ、家庭における文化財の保存にも寄与できたこと。</p>

2	プラネタリウム	館報P17-21
----------	----------------	-----------------

取組方針	<p>・天体の学習施設として積極的な活用を図り、授業の一環としての利活用を促進し、博学連携の強化を図っていく。また、教育資源としてのみでなく観光資源ともなるため、観光旅行、修学旅行等の教育旅行、学校行事での活用も促進する。</p> <p>・運営にあたっては、投映・解説員の研修等を積極的に行い、解説技術の向上、内容の充実を図る。</p>
-------------	--

①年間投影

春季	「イナズマデリバリー バイザウェイの宇宙旅行?! ブラックホールとの遭遇」 3月13日（水）～7月12日（金） [前年度より継続]
夏季	「プラネタリウム ドラえもん宇宙の模型」 7月13日（土）～9月16日（月・祝）
秋季	「アポロストーリー 月への挑戦」 9月18日（水）～12月1日（日）
冬季	「星と海に抱かれて アジアンヒーリング」12月3日（火）～3月23日（日） 「宇宙のオアシスを探して 奇跡の星への旅」3月25日（火）～

②その他の投影

	<p>(1) ファミリーアワー（幼児から小学校低学年やその家族を対象） 「こぐま座のティオ 12星座のなかまたち」</p> <p>(2) 学習投映（小中学校の理科・天体学習の理解を深める） 「むしむし星空大行進」小学校1・2・3年生向け 「星が見てきたKUMAMOTO」熊本市立小学校5年生 「この空に願いをこめて…」中学生向け 他</p> <p>(3) 幼児団体向け投映（七夕特別投映）</p> <p>(4) 字幕付きプラネタリウム（視覚障害者向け）</p> <p>(5) 特別投映</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はじめてのわくわくプラネタリウム (赤ちゃん連れの方や、プラネタリウムを視聴したくとも遠慮している方々) ・星降るドームで熊本の七夕とめぐりあう (民俗担当学芸員が星を絡めた講演会を実施) ・熟睡プラ寝たリウム（全国一斉「熟睡プラ寝たリウム」の開催に合わせ実施） ・ブラック星博士の九州征服計画 in くまもと & 明石市立天文科学館・井上館長による楽しい星空解説 他
--	---

③研修等

	<p>(1) 全国プラネタリウム大会2024・横浜における研修（6月3日～5日・1人出席）</p> <p>(2) 全国プラネタリウム研修会2024・富山における研修（12月16日～18日・1人出席）</p> <p>(3) 民間講師によるアナウンス研修（3月10日 9:30～16:30 5人全員出席）</p>
--	--

当館の評価

A:目標以上に実施できた B:概ね実施できた C:課題が残った D:目標を大きく下回った

館としての総合評価	
B	学芸員が未配置であり、質の担保が課題として残る中、事業実施に当たり番組選定など工夫を行った結果、観覧者は増加した。全体として概ね評価できる。
担当者による個別評価	
<p>【投影について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・番組について、人気アニメ番組を活用した内容を織り込んだ。また、投影時期についても多くの誘客が見込み時期とした。 ・各種投映については、校長・園長会や宿泊教室説明会等の機会を捉え、市立学校へ直接説明を行い、協力依頼・活用促進を図ったことで、学校単位の来館予約が増加している。 ・広報活動は、ホームページに加えSNS等を活用するなど、幅広く実施した。 ・各種投映だけでなく、天文講演会や特別投映の実施など幅広い世代の観覧者に対して天文分野に関する様々な情報提供を行った。中でも「星降るドームで熊本の七夕とめぐりあう」は他分野である民俗分野と連携し、大人に向けた七夕の講演会を企画。前半の星空解説に続けて後半に県下の七夕行事についての講演会を実施し、満員となった。 	
<p>【運営について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も天文分野に関する様々な情報を幅広い世代の観覧者に対して継続的に提供していく必要があるが、天文担当学芸員が不在である。引き続き人材確保に努める。 ・新たな発見が相次ぐ天文学に関する知見を多くの人々に伝えられるよう、研修をとおして、魅力的な番組の導入や解説内容の充実を図っていく。 	

委員の総合評価	
B	アニメキャラクターを活用した工夫などで来館者の増加に貢献した点は評価できる。 一方で、天文の学芸員が配置できていないことから、質の担保を図るため、早急に代替手段を含めた体制整備を求める。
各委員の意見や要望/質問	
<p>【意見や要望】</p> <p>(池上委員/学識者/地質)</p> <p>①学芸員が未配置の状態です事業を継続されていることについて、職員の皆様のご努力は高く評価されると思います。ただ、質の担保が課題として残っているとのことであるので、学芸員の未配置が長期とならないよう、人材確保に努められたい。</p>	

<p>【意見や要望】</p>
<p>（坂本委員/学識者/動物）</p> <p>②天文担当の学芸員の未配置による質の担保が気になった。天文は地球環境への気づきにつながるので、人材確保は大事だと思われる。例えば市立小学校～高校の非常勤講師（理科もしくは地学担当者）や退職者、ボランティアで天体観察会等を長年続けた来られた方などに週1回程度来ていただき、企画への助言をもらうシステムを作ったりするのはいかがだろうか？</p>
<p>（中西委員/学識者/美術工芸）</p> <p>③昨年度からの観覧者増は「館としての総合評価」の中の「番組選定など工夫を行った結果」と受け取れます。入館者数に影響の大きいプラネタリウムの専門学芸員の未配置は問題であり、人材確保は大きな課題であると考えますが、当該年度の実施内容を拝見する限り「B:概ね実施できた」でよいように思います。</p>
<p>（秋元委員/学校教育）</p> <p>④プラネタリウムにつきましては、従来の「星空を楽しむ場」という印象に加え、人気アニメ番組を活用した内容を取り入れることで、ストーリー性のある構成となっており、幅広い層の来館者に親しまれているように感じます。特に小学生にとっても興味を持って鑑賞できる内容であり、教育的観点からも意義深いものと考えます。</p> <p>また、本校でも集団宿泊学習の事前学習の一環として、熊本博物館を利用する機会を設けております。今後、他の学校行事と連携した博物館活用プログラムがさらに充実することで、児童の学びがより深まることを期待しております。</p> <p>さらに、「熟睡プラ寝たリウム」につきましては、報道等でも取り上げられており、大人の来館者層の拡大につながるユニークな企画であると感じました。今後も、世代を問わず楽しめる多様な企画の展開を期待しております。</p>
<p>（菊川委員/学校教育）</p> <p>⑤プラネタリウムは熊本博物館の一つの目玉であることは間違いのないと思います。入館者全体に対する高校生・大学生の5%ほどと少ないものの、その6割がプラネタリウムを観覧していることから、プラネタリウムを目当てに来館したことがうかがえます。現状に慢心することなく、人気アニメ番組を活用した内容を取り入れるなど、担当者の意欲と、創意工夫の努力が伝わってくるようです。</p>
<p>（星牟禮委員/学校教育）</p> <p>⑥熊本市の学校などの施設に広報の大型のポスターなどを設置（人通りが多い場所）すると学生の観覧者が増えると思う。</p>
<p>（山瀬委員/社会教育）</p> <p>⑦人気アニメ番組を活用したプログラム等は相当の誘客力が見込まれ、観光の観点からも有意義と思われる。県内において数少ないプラネタリウム施設を大いに活かしていただければ。一方、天文分野における博物館活動の一定の質の確保という観点から見れば、専門の学芸員は必要であると思われるので、確保の努力を。</p>

<p>(小原委員/一般公募)</p> <p>⑧「夜の集客力」を強化するキラコンテンツを！</p> <p>「観光資源」として活用するため、特に夜間の魅力を高める施策が必要です。例えば、「熊本の夜空と歴史」をテーマにした観光客専用の特別投映プログラムを開発し、市内の宿泊施設と提携してチケット付き宿泊プランを造成してください。昼間の教育利用と切り離れた、収益性の高い夜間コンテンツで収益向上を目指すべきです。</p>
<p>(小原委員/一般公募)</p> <p>⑨【プラネタリウム × 地元ミュージシャン・癒やし】</p> <p>「宇宙に響く感動体験『ヒーリング・アート・セッション』」を、リピーターを呼び込む定期企画として最優先で企画・実行すべきです。</p> <p>全国どこでも見られる録画番組ではなく、地元の人気ミュージシャンによる生演奏（アコースティック）や、アロマと連動したマインドフルネス瞑想を、美しい星空映像と結びつけた、「熊本でしか体験できない」癒やしのエンターテインメントを提供すべきです。これにより、SNSでの話題性が高まり、多忙な社会人や若年層をターゲットにしたリピート集客力を格段に高めます。</p>
<p>【質問】</p> <p>(小原委員/一般公募)</p> <p>⑩「神解説員」を育てる具体的な研修計画と予算は？</p> <p>「解説技術の向上」を掲げていますが、具体的に「どのように」全国トップクラスの「神解説員」を育てるのですか？ そのための研修制度（内容と頻度）や、優秀な人材を確保・維持するための予算は、この計画にどれだけ確保されていますか。</p>
<p>【事務局回答】</p> <p>各委員からご意見をいただいている通り、まずは学芸員の確保を最優先に考えています。現在の解説員に対する研修は事業内容記載の通りですが、予算については、研修参加のための旅費を確保しています。</p>
<p>(鈴木委員/学識者/民俗)</p> <p>⑪プラネタリウムの「観光旅行、修学旅行等の教育旅行」での活用というのは、具体的にはどのような内容を想定されているのでしょうか。</p>
<p>【事務局回答】</p> <p>例えば、一般財団法人 熊本国際観光コンベンション協会が実施する「教育旅行誘致事業」では、熊本城を中心とした熊本市の歴史・文化に関する教育素材を県外に売り込み、熊本での修学旅行のルートとして当館の利用を促進しています。</p> <p>また、本市の小学生の約半数は集団宿泊で金峰山自然の家を活用していますが、利用前にプラネタリウムで天文の学習を行うなどしています。</p>

3	教育普及活動（館内講座等）	館報P22-31
----------	----------------------	-----------------

取組方針	教育普及活動は、調査・研究活動、展示活動とともに博物館活動の核となる重要な事業である。そこで来館者だけでなく来館しない人も対象とした生涯学習の拠点としての活動促進を図るとともに博学連携を強化し、学校教育を補完する機能を高め提供していくものとする。
------	---

(1) 通年講座	<p>実績：全25回、延べ参加者総数 564人</p> <p>〔主な実施内容〕</p> <p>地質学講座（5回：162人）</p> <p>植物学講座（5回：136人）</p> <p>保存科学講座（5回：68人）</p> <p>くまはくのゆるゆる美術部（4回：74人）</p> <p>古文書講座（6回：124人）</p>
(2) こども科学・ものづくり教室	<p>実績：全59回実施 延べ参加者総数 1,460人</p> <p>当館職員による科学実験教室のみならず、大学や専門機関の協力を得て実施。 なお、本事業は文部科学省の「学校・家庭・地域連携推進事業費補助金」を活用。</p> <p>〔主な実施内容〕</p> <p>「空気砲ボウリングを楽しもう」、「葉脈標本でしおりを作ろう」 「プログラミング・チャレンジ2024 Autumn」 （県立大、熊本大職員及び学生による指導）</p> <p>「触れて作って！半導体がここにもあるよ！」（熊本大学 東名誉教授指導） 「春の体験ミュージアム：科学のひろば2025」（崇城大学共催イベント） 他</p>
(3) こども自然学び教室	<p>実績：全7回実施 延べ参加者総数 168人</p> <p>館内のほか、市外における自然に関する室内体験教室と野外観察会を実施。</p> <p>〔主な実施内容〕</p> <p>「葉っぱのスタンプでオリジナルグッズ作り」 「ちりめんモンスターをさがしてみよう！」 「立田山観察会」 「立神峡観察会」（氷川町） 「化石と海辺の生きもの観察会」（上天草市） 他</p>

当館の評価

A:目標以上に実施できた B:概ね実施できた C:課題が残った D:目標を大きく下回った

館としての総合評価	
B	社会情勢の変化やお客様のニーズに応えながら、限りある人的資源の中で、優先度を見極め、概ね実施できた。
担当者による個別評価	
(1) 通年講座	
<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度より回数が減少しているが、他業務との兼ね合いなどでやむを得ず実施できなかったものや、費用対効果の関係で他業務に振り替えたことなどが要因。 ・開講している講座については、リピーターも多く、それぞれの興味関心や学びを深め続けることができおり、参加者の満足度は高い。 	
(2) こども科学・ものづくり教室	
<ul style="list-style-type: none"> ・大学等の教育機関その他の団体との共催・協働による多種多様な科学実験・科学工作の機会を提供し、参加者の興味・関心・満足度を高めるようにした。今年度は海外企業の参入に伴う半導体関連教室も新たに実施した。 ・新規参加者・リピーターも増えた一方で、様々な手続きや準備が必要な共催・協働イベントが一時期に集中したり、教室の開催数が増えたりしたことにより他業務に影響が生じるなどの課題があった。 ・今後は、開催数の調整や実施時期の分散などを行いつつ、多様なニーズに応え、サービスの質を高めるために、総合博物館の強みを活かし、理工分野以外のこども向けの教室の設置を今後検討していく。 	
(3) こども自然学び教室	
<ul style="list-style-type: none"> ・室内体験教室では、木の葉や食材（ちりめん）などから身近な自然に目を向けるきっかけを作ることを目的として実施した。野外観察会では、山・川・海それぞれの環境で動物・植物・地質について実物を見ながら学習した。いずれも生物多様性や環境の変化など、身近な自然について親子で考える機会を提供することができた。リピーターも何組かおられるため、内容に変化を持たせる工夫が必要である。 	

委員の総合評価	
B	館内講座や教室は多様であり、学習機会の提供に貢献していると評価できる。 一方で、担当職員の負担が懸念されることから、例えば、補助的な役割を担う人員を配置するなどし、さらなる充実を図られたい。
各委員の意見や要望/質問	
【意見や要望】	
次ページより	

各委員の意見や要望/質問
<p>【意見や要望】</p> <p>（池上委員/学識者/地質）</p> <p>①多様な講座を多数開催され、住民や子どもたちに学習の機会を提供されている活動は高く評価できる。リピーターが増加しているとのことなので、次の段階の受け皿となる子ども向けの通年型講座（クラブ活動型）についても検討が必要と思われる。また、人文系の子ども向けの教室も職員を配置するなどして実施して行く必要があるのではないかと？</p>
<p>（鈴木委員/学識者/民俗）</p> <p>②各項目とも十分に目標を達成できている印象を受けました。 今後の「こども科学・ものづくり教室」の開催回数について知りたいと思いました。</p>
<p>（坂本委員/学識者/動物）</p> <p>③教育普及活動がこのように多く開催されていることに驚いた。特別展・企画展の準備と同時進行で実施しているスタッフの日々の努力を感じた。 活き活きとした講座や教室を持続させていくには、スタッフの知識が古くならないよう最新の知見に更新していく必要がある。そのためにはできるだけ専門性を高めていく努力が必要で、学芸員の研究・学会発表・学会参加を支えていくことも重要と思われる。</p>
<p>（中西委員/学識者/美術工芸）</p> <p>④教育普及活動は、調査・研究活動の市民への還元事業として、展示活動とともに博物館活動の核となる重要な活動であることはその通りと思います。館内施設・所蔵資料を活用し、リピーターも定着している様子で、昨年度の評価は妥当と考えます。 他業務との兼ね合いが難しいと思いますが安定的な継続を希望いたします。</p>
<p>（秋元委員/学校教育）</p> <p>⑤子ども講座については、いずれも趣向を凝らした内容であり、子どもたちの興味・関心を引きつける工夫が随所に見られました。特に、夏休み期間中に実施された「実験ショー」は多くの参加者を集めており、学校では体験することが難しい内容であったことから、今後も継続していただくと教育的にも大変意義があると考えます。 また、申し込み方法についてホームページを確認したところ、2025年度の「こども科学・ものづくり教室」の案内がゴールデンウィークまでの情報で更新が止まっているようでした。教室内容が決まり次第、随時情報を更新していただくと、保護者や学校関係者にとっても申し込みがしやすく、参加促進につながるように思いました。</p>
<p>（星牟禮委員/学校教育）</p> <p>⑥博物館で行っている講座や教室について何らかの方法でもっと告知がほしい。このような講座や教室に興味があっても、存在を知らない子供や大人がたくさんいると思う。また、どのようなことを行っているのかの写真をホームページなどに貼ってほしい。</p>

<p>各委員の意見や要望/質問</p> <p>(山瀬委員/社会教育)</p> <p>⑦こども時代のものづくりの経験や自然観察・自然とふれあう経験は将来において、理科への関心や環境への造詣を深めるのに良い影響があると考えられる。自然科学系でこういった活動を実施できるところはあまり多くないので、ぜひ、より充実した取組みの推進に努めていただきたい。</p>
<p>(小原委員/一般公募)</p> <p>⑧活動の目的を「課題解決」と「人づくり」に定める地域づくり</p> <p>(1) 課題解決に直結する講座を学芸員の専門知識を、地域の環境、災害、文化財保護など「地域が抱えるリアルな課題」の解決に役立てる対話型講座を企画すべきです。博物館を、住民が学び、協力し合う地域課題解決のプラットフォームへ進化する。</p> <p>(2) 人づくり：学習成果のアウトプットを義務化 学習効果を最大化するため、講座や体験後の「ふり返し（評価）」と、その学びを地域に発信する「成果発表・展示の機会」をセットで制度化すべき。インプットだけでなくアウトプットの場を提供することで、自立した市民の育成を促進する。</p>
<p>(小原委員/一般公募)</p> <p>⑨連携・体制強化で「つながり作り」を加速するつながり作り（学校連携）：教育連携機能の「専門化・強化」を要望</p> <p>(1) 「館内学習支援活動（お迎え事業）」を真に実りあるものとし、博物館と学校の間には強固な教育的なつながりを築くため、単なる職員の配置ではなく、教育連携機能の「専門化・強化」を強く要望する。具体的には、学校の多忙さや複雑なカリキュラムを深く理解し、博物館の資料や施設を個々の授業計画に合わせた「オーダーメイド型」で提供・調整する専門チーム（または専任職員）の設置が不可欠です。この専門機能は、学校側のニーズを的確に把握し、博物館資源を最適な形で橋渡しすることで、学校現場の負担を大幅に軽減する役割を果たします。これこそが、博物館を地域教育の核として位置づけ、次世代を育成する不可欠な教育の橋渡し役となるための、最も効果的な一歩である。</p> <p>(2) つながり作り（地域連携）：年間連携プログラムの制度化 公民館や観光協会などの他の地域団体との協力関係を深めるため、予算と目標値を伴う「年間連携プログラム」を制度化すべきです。これにより、学習機会を地域全体に拡大し、多角的なつながりを構築します。</p> <p>(3) つながり作り（デジタル）：データベース活用のための支援 収蔵品データベース公開に加え、遠隔地の利用者や市民が活用できるよう、「データベース利用促進講座」や「学校授業向けのデジタル教材パック」をセットで提供し、学びへのアクセス（つながり）を確保することを要望する。</p>

【質問】

（小原委員/一般公募）

⑩実行力と持続性を確保するための確認

人づくりへの貢献に必要な「学芸員の活動時間」の確保は？

地域課題解決型の講座企画や、公民館との連携といった「人づくり・地域づくり」の活動を行うため、多忙な学芸員の業務時間はどのように確保し、適切に配分する計画ですか？専門性の活用と業務過多防止の両立が必要です。

【事務局回答】

他の委員もからご意見をいただいておりますとおり、現状においても、学芸員は根幹の業務である調査研究に加え、各種講座や博学連携への対応など業務は多岐にわたっています。その中でも、庁内の関係部署の要請や企業と連携した新たな取組などに対応しながら、館運営の中心として業務にあたってきました。

さらには、今後、皆様のご意見や、お客様のニーズのほか、デジタル化などをはじめとする法改正の要請も検討し、対応していく必要があります。

これらの課題に対応し、解決するためには、時間の確保のみならず、質の向上が伴います。そのため、館全体の体制や既存の業務を見直すなどしながら、計画的かつ安定的に運営を進めていくにあたり、多角的かつ中長期的な視点での見直しが必要であり、今後の運営方針を策定する中で、最も重要な検討項目の一つと見通しています。

（小原委員/一般公募）

⑩遠隔地との「デジタルなつながり」構築戦略は？

来館が困難な遠隔地の学校や住民に対し、ホームページ公開以外に、双方向で交流できる「オンライン出前授業」や「リモートギャラリートーク」といった、デジタルを活用した具体的な「つながり作り」の計画はありますか？

【事務局回答】

事項「4 博学連携（1）」参照ください。一部で実施中です。

（小原委員/一般公募）

⑪生涯学習の「人づくり効果」を測る評価体制は？

「様々な年齢層」への提供を目指す生涯学習プログラムについて、参加層のニーズ調査や、プログラムの「人づくり効果」を継続的に把握するための評価・改善の仕組み（アンケート、事後調査など）をどのように構築する計画ですか？

【事務局回答】

資料3 1を参照ください。

4	教育普及活動（博学連携事業）	館報P32-41
----------	-----------------------	-----------------

取組方針	<ul style="list-style-type: none"> ・ 博物館収蔵資料や学芸員の専門性を、学校教育や館外における学習活動支援に活用する。 ・ 当館の施設機能や学芸員等の専門性を生かし、博物館実習生の受け入れをはじめ、教職員を対象とした研修会の実施、その他職場体験学習の場として中高生や大学生等の受け入れなどにも取り組む。
-------------	---

<p>(1) ゲストティーチャー派遣授業（お出かけ事業）</p> <p>内容：派遣授業プログラム集をもとに、学校の要請に応じて学芸班職員を派遣し、学習・指導支援を行った。</p> <p>実績：11校：18単位時間（内、Zoomによる遠隔授業：延べ2時間程度）</p>
<p>(2) 館内学習支援活動（お迎え事業）</p> <p>実績：45校：54プログラム</p> <p>内容：小中学校から博物館に児童生徒を迎え、館内資料や施設を活用して学習を行う。小中学校の教員と学芸員が協働で作成した「館内学習支援プログラム集」をもとに、館内学習の支援を行った。</p>
<p>(3) 講師派遣事業</p> <p>内容：各分野の学芸員等の高度な専門性を生かし、様々な年齢層が参加できる講座や講演会、シンポジウム等を開催し生涯学習の場としての機能の充実を図る。館内だけの事業開催にとどまらず、公民館等の他の社会教育施設講座等にも協力し、連携して生涯学習支援に努めた。</p> <p>実績：23回：参加者数1,024人</p>
<p>(4) 教職員研修</p> <p>内容：学校教育支援事業で活用する「館内学習プログラム集」を基に、そのプログラム内で紹介している館内展示物・資料等の価値や魅力を各担当学芸員が教師向けに解説した。</p> <p>実績：8月19日（月）① 9：00～11：45（人文系解説） 7人参加 ② 13：15～16：00（理工系解説） 13人参加</p>
<p>(5) 博物館実習</p> <p>内容：学芸員資格取得のための博物館実習を実施した。</p> <p>実績：8月21日（水）～26日（月）13人 熊本大学6名、崇城大学1名、立命館大学2名、佐賀大学1名、西南学院大学1名、久留米大学1名、鹿児島大学1名</p>

当館の評価

A:目標以上に実施できた B:概ね実施できた C:課題が残った D:目標を大きく下回った

館としての総合評価	
B	義務教育段階の関係者はもとより、幅広い対象に社会教育、生涯学習の機会の提供した。また、現役の教員や将来のなり手に対し、求められる人材育成支援を実施するなどし、概ね実施できた。
担当者による個別評価	
(1) (2) お出かけ事業、お迎え事業	
<ul style="list-style-type: none"> ・事後のアンケートによると、館内学習の満足度は体験した教師・児童ともに高評価であった。内容の充実も広く認知されるようになり、初めて活用する学校も増えた。 ・利用の増加に伴い、希望の時期が重なることがあり、場所や時間の調整が課題であった。そのため、通常の対応が難しい場合は、Zoom等のICTを活用した学校での事前学習や、展示室でのグループ毎の解説等、多様な代替案を紹介するなどの工夫を行っていく。 	
(3) 講師派遣事業	
<ul style="list-style-type: none"> ・以前から連携していた社会教育施設の他に、新たな団体との関係・連携も図れるようになり依頼数は近年増加傾向にある。そのような中、他業務との兼ね合いでどの程度実施が可能であるのか、各分野・担当者ごとに見直しをもって取り組んでいく必要がある。 	
(4) 教職員研修	
<ul style="list-style-type: none"> ・参加した教員は学芸員の詳しい説明に興味を持って熱心に聞く様子が見られた。 ・事後のアンケートでは「学校で紹介したい」「是非子どもたちを連れてきたい」という意見が多く寄せられた。本研修のよさを学校へ伝え、更に多くの参加を募りたい。 	
(5) 博物館実習	
<ul style="list-style-type: none"> ・分野ごとの業務体験及び展示作成の課題を体験してもらった。 ・実際に資料に触れる経験や、標本の作成などの実習から、「大学では経験できないものであった」「学芸員へのイメージがわいた」などの感想が寄せられた。 	

委員の総合評価	
A	市内の小中学校を中心に学校機関と積極的に連携しながら実施しており、十分な成果を上げていると評価できる。
各委員の意見や要望/質問	
【意見や要望】	
(池上委員/学識者/地質)	
①授業、教職員研修、学芸員育成において、関係機関との連携が図られている。	
(鈴木委員/学識者/民俗)	
②各項目とも十分に目標を達成できている印象を受けました。	

<p>【意見や要望】</p>
<p>（坂本委員/学識者/動物）</p> <p>③教職員研修は博物館の広報活動としても非常に効果的と思われる。教員から博物館の面白さを広めてもらう良い機会なので、参加者の増加を期待したい。</p>
<p>（高宮委員/学識者/植物）</p> <p>④<お礼>熊本大学で学芸員資格取得が可能なのは、文学部・教育学部・理学部の学生ですが、必修科目の博物館実習を毎年多人数引き受けて下さり有難うございます。夏休みの多忙な時期に、時間を割いていただいて助かります。</p> <p>熊本大学の大学教育統括管理運営機構では、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）の支援で、女子中高生の理系進路選択支援プログラム（熊本大学での名称「はばたけ！熊本サイエンスガールズ」）と、ジュニアドクター育成塾（熊本大学での名称「熊本未来ドクター塾」）を行っています。この企画に熊本博物館には連携していただき、清水学芸員と山口学芸員には本年度具体的に協力いただいています。大学としては受講生の興味の範囲が広がり、大変に助かりました。</p> <p>またお二人は熊本県希少野生動植物検討委員会（本年度から希少野生生物検討委員会に改名）の検討委員を引き受けていただき、熊本県のレッドデータブックやレッドリスト作成に協力いただいています。これらの活動は博物館の研究で生かされた知識を基としていて、希少生物保全に役立っています。</p>
<p>（中西委員/学識者/美術工芸）</p> <p>⑤館外での派遣事業等も積極的に行われ、意欲的な活動が感じ取れます。B:概ね実施できたという評価は妥当と考えます。</p> <p>本活動の取組方針に、館の収蔵資料や施設機能とともに学芸員の専門性を生かすことがうたわれているように、活動の前提となるのは学芸員の調査・研究であると思います。多岐にわたる業務との兼ね合いが困難かと思いますが、そのための十分な機会と時間が与えられることが望ましいと思います。</p>
<p>（秋元委員/学校教育）</p> <p>⑥これまで、熊本博物館が実施されているゲストティーチャー派遣事業および講師派遣事業について、具体的な内容を十分に把握していませんでしたが、館報を通じて多様な内容が展開されていることを知り、大変有意義な取り組みであると感じました。</p> <p>今後は、学校内において教職員へ本事業の内容を紹介し、来年度以降の教育活動において積極的に活用を図ってまいりたいと考えております。</p>
<p>（山瀬委員/社会教育）</p> <p>⑦収蔵資料の価値や魅力を教職員に伝えるのはもちろん、思考力などを育成するといった探究的活動が求められている学校現場において、教職員とともに収蔵資料等を活用した教材開発のような取組みなど進めることができれば、学校現場での博物館資料の活用が一層進展するのではないかと思う。</p>

<p>(小原委員/一般公募)</p> <p>⑧博学連携の質と「熊本らしさ」の深化について 連携を「学習支援」から「共同創造」へ進化させるべき 博学連携を、単なるサービス提供ではなく、学校や大学と共同で教材やプログラムを創造する段階へと進化させるべきです。特にプラネタリウムのオリジナル番組開発において、地元の教員や大学研究者の知見を取り入れ、現場のニーズと学術的知見が融合した質の高いコンテンツを生み出すことで、連携の意義が深まります。</p>
<p>(小原委員/一般公募)</p> <p>⑨県市連携展示室は「郷土学習の起点」とすべき 県市連携展示室の「熊本県域に分布する生物標本」という「熊本らしさ」の資源を、学校のカリキュラムと連動した探求学習の起点として位置づけるべきです。標本をきっかけに地域のフィールドワークへつながるプログラムを提供することで、児童・生徒の学びの深さと広がりが増します。</p>
<p>(小原委員/一般公募)</p> <p>⑩博学連携を強化する具体的な行動 「熊本らしさ」満載のプラネタリウム番組制作を最優先で要望 博学連携を最も牽引するコンテンツとして、プラネタリウムのオリジナル番組を、熊本の歴史・文化と天文を融合させたテーマ（例：加藤清正の築城・治水と暦の関わり、阿蘇の神話と星空）で最優先で制作することを強く要望します。これにより、歴史・社会科の授業でも利用できる横断的な教材となり、全学年・全教科での博学連携を促進します。</p>
<p>(小原委員/一般公募)</p> <p>⑪学校連携を担う「教育連携専任機能」の強化を要望 幼稚園・小中学校への利活用促進を確実にするため、学校のカリキュラムや多忙さを理解し、博物館の資源を個々の授業計画に合わせた「オーダーメイド型」で提供・調整する専門チーム（または専任職員）の設置を要望します。これが、学校現場の負担を大幅に軽減し、不可欠で強固な博学連携のつながりを構築する鍵となります。</p>
<p>(小原委員/一般公募)</p> <p>⑫デジタル資料を「博学連携教材」として加工・提供することを要望 「館外での学習」促進のため、収蔵品データベースの内容を、小中学校の指導要領の単元と紐づけ、教員がすぐに使える画像や解説文の「デジタル教材パック」として加工・提供することを要望します。これにより、来館できない場合でも、授業での資料活用（博学連携）が飛躍的に促進されます。</p>

【質問】

（小原委員/一般公募）

⑬ 博学連携の実行体制と効果の検証

博学連携の「数値目標」と「効果検証」の仕組みは？

「博学連携の強化」を掲げていますが、具体的に、市内小中学校の「年間利用回数（率）」といった数値目標は設定されていますか？ また、「館内学習支援活動」やプラネタリウム利用について、学校側と共同で学習効果を評価・検証する仕組み（事後アンケート、振り返りシートの共同作成など）の導入計画はありますか。

【事務局回答】

資料3-1を参照ください。

（小原委員/一般公募）

⑭ 学芸員の「教育連携活動時間」の確保と専門性向上の計画は？

学芸員等が教育・普及活動を担うとしていますが、学校とのオーダーメイドプログラムの企画や教材開発といった博学連携の強化に必要な活動時間を、通常業務の中でどのように確保し、配分する計画ですか？ また、解説員の解説技術向上研修について、具体的な内容（例：大学教員による専門研修など）はどのようなものですか。

【事務局回答】

前項質問⑩に対する事務局回答を参照ください。

5	情報公開	館報P41、51
----------	-------------	-----------------

取組方針	<ul style="list-style-type: none"> ・当館ホームページ等を活用し、広く熊本の自然や歴史など学習できるよう当館の収蔵品データベース等の充実をはかり、館外での学習機会の確保や研究活動、館外での講座等への活用促進を図る。 ・展示資料や展覧会等の情報、講座・イベント情報等について、印刷物、ホームページなど、様々な媒体を活用し、県内外へ広く情報の発信を行う。
-------------	--

	<p>(1) ホームページにおける展示品、実験等公開</p> <p>ア.収蔵品データベースの情報更新・ホームページ公開 各分野の収蔵資料（約15万点分）</p> <p>イ.「くまはくオススメ！資料・実験工作・観察法・エトセトラ 紹介・解説コーナー」 新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策の一環として公開。 自宅にいながら実験工作が楽しめる情報などを掲載。</p>
	<p>(2) 常設展示ガイドブック、特別展等における図録、解説リーフレットの作成・発行</p> <p>ア.展覧会刊行物</p> <p>夏季特別展：図録「旅するタネ」</p> <p>企画展収蔵品展：リーフレット「くまはくコレクション かがやけ！熊本の刀と 絵画」</p> <p>春季企画展：図録「送る―熊本県下の精霊流し」</p> <p>イ.くまはくニュースレター</p> <p>展示会や講演会の報告、熊本の自然や収蔵資料などについての紹介。 今年度は5月、11月と年2回発行。</p>
	<p>(3) SNS等を活用した広報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公式 YouTube チャンネル 登録者数 740人 ・公式 X (旧 Twitter) フォロワー数 6,010 人 ・公式 Instagram フォロワー数 1,597人 ・公式 facebook フォロワー数 424人 ・熊本市塚原歴史民俗資料館 公式 facebook フォロワー数 739 人

当館の評価

A:目標以上に実施できた B:概ね実施できた C:課題が残った D:目標を大きく下回った

館としての総合評価	
B	様々な手段で情報公開を行い、数量そのものは拡充しており、概ね実施できた。今後は国が推進するDX化にどこまで対応するかが課題である。
担当者による個別評価	
(1) ア	情報は随時更新、拡充しているが、公開基盤に変更はなく現状を維持している。法改正によりさらなるデジタル化を求められていることから、今後の検討課題である。
(1) イ	子ども科学・ものづくり教室において、作り方や実験の説明として映像を使用した。自宅でも繰り返し見ることが出来るので好評であった。今後新たな内容を検討していく。
(2)	ア 春季企画展図録は会期中に完売は出来なかったものの、今年8月15日に完売した。 イ 他館への発送および館内配架を行った。
(3) SNS等を活用した広報	展覧会やイベントなどの広報にSNSを活用した。全体として増加傾向にはあるものの、閲覧者の年齢層としては30代後半～40代前半が多いため、高校生大学生などの若い世代へのアプローチの方法を今後検討する必要がある。

委員の総合評価	
C	上記の活動内容は一定の評価をしているが、博物館そのものの魅力や事業内容について、様々な層に伝わる工夫が不足していると評価した。様々な観点から広報戦略のあり方について見直しを求める。
各委員の意見や要望/質問	
【意見や要望】	
(池上委員/学識者/地質)	
①収蔵品データベースの公開など適切な発信ができていますが、さらなるDXの推進が望まれる。また、SNSの活用による若い世代へのアプローチが可能となるよう、発信の活性化に資する役割分担や業務マニュアルの構築が必要と思われる。	
(鈴木委員/学識者/民俗) ②SNSの登録者数、フォロワー数などについて、数値目標についての方針等があればご教示頂きたいと思えます	
(坂本委員/学識者/動物)	
③高校生・大学生のSNS等の閲覧者数が少なく(?)、入場者数についても極端に少ない。これは高校生・大学生が知りたいと思う情報が少ないことを意味するのかもしれない。例えば高校生には大学の研究者情報、大学生には研究対象に関する情報を得られるサイトを紹介したり、相談を受けることができれば利用が増えるのではないかと。	

各委員の意見や要望/質問
<p>【意見や要望】</p> <p>（中西委員/学識者/美術工芸）</p> <p>④年度内において現状でできる限りの発信を行ったという点では、B:概ね実施できた という評価は可能かと思えます。</p> <p>情報公開については、より広く博物館の存在や展覧会の開催状況についてあらゆる世代の認知度を高めるためにまだまだ検討の余地のある事項かと思えます。特に若い世代へのアプローチとしてSNS等の活用はご指摘の通りと考えます。</p>
<p>（秋元委員/学校教育）</p> <p>⑤こども科学・ものづくり教室の動画「おうちミュージアム」は、内容が非常に分かりやすく、児童や保護者にとっても親しみやすい教材となっております。科学やものづくりへの興味・関心を育む上で、有意義な取り組みであると感じております。</p> <p>動画の制作には多くの労力を要するものと拝察いたしますが、今後、動画の本数が増加することにより、より多くの視聴者の関心を集め、教育的効果のさらなる向上が期待されます。</p>
<p>（星牟禮委員/学校教育）</p> <p>⑥高校生へのアプローチの方法としてはチラシを作り各学校の各教室に掲示したり、先生方から一言説明をしてもらったり、各学校の地域活性を行う部活動や委員会に働きかけ生徒自ら高校生へのアプローチを行うなどの方法が有効だと思う。特に最後の生徒に動いてもらう方法では、実際に行動した本人や周りの人への影響が大きく、高校生に博物館のことをよく知ってもらえると思う。</p>
<p>（小原委員/一般公募）</p> <p>⑦情報発信においては、博物館独自のキャラクターを活用し、子どもや親子に親しみやすいデザインを工夫してはどうか。また、展示やイベントの紹介に“子ども向けにわかりやすい解説”と“大人やマニア向けの専門的な豆知識”を併記することで、幅広い層に楽しんでもらえる情報提供ができると考える。</p>
<p>（小原委員/一般公募）</p> <p>⑧ニュースレターやSNS発信の際に、“ミニ知識コーナー”を設け、子どもには興味をひく簡単な解説、大人には掘り下げた専門知識を提供する工夫をお願いしたい。さらに、学校や地域団体と連携し、市民が情報発信に関わる機会を増やすことで、情報が“一方的に届く”ものから、“一緒につくる”ものへと進化できると考える。</p>
<p>【質問】</p> <p>（小原委員/一般公募）</p> <p>⑨今後、展示やイベントの企画段階から、市民や子どもの意見を取り入れたり、広報素材づくりに参加してもらう仕組みを検討しているのか。</p>
<p>【事務局回答】</p> <p>基本的な対応として「1 特別展及び企画展等の開催」の⑫（1）の回答欄を参照ください。</p>

その他のご意見等

（池上委員/学識者/地質）

①各事業の目標（目標値）を見つけられず、達成度の確認ができなかった。各事業についてKPI等の指標の設定は必要ないでしょうか？また、博物館の管理運営（施設管理・組織管理・危機管理・財務等）、広報、利用者サービス、コレクション、調査研究については評価されないのでしょうか？

【事務局回答】

「1 特別展及び企画展等の開催」の⑫（2）の回答欄を参照ください。

（鈴木委員/学識者/民俗）

②「館としての総合評価」が5項目ともすべて「B」という結果は、例年に比べてどうなのでしょう。報告書を拝見し、個人的には、多方面で熱意をもって様々な取り組みがされているように感じますので、自己評価「A」がひとつもないという結果は妥当なのか疑問に感じました。

【事務局回答】

例年この時期に前年度の評価を行ってきましたが、「館としての総合評価」を行ったのは今回が初めてです。

（鈴木委員/学識者/民俗）

③1~5の各項目ごとに「館としての総合評価」が示されていますが、この「総合評価」欄の文章は、可能な限り、「取組方針」欄の文面の内容に対応する形で記された方が、判定の理由がより分かりやすくなるのではないのでしょうか。次回以降ご検討いただければと思います。

（坂本委員/学識者/動物）

④市民には市政だよりで特別展や企画展を初めさまざまな情報が届くが、市外の住民には情報が届きにくい。せめて特別展と企画展だけでも各市町村の広報紙のお知らせコーナーに掲載されると来館者の増加につながるのではないかとと思われる。

以前は博物館主催で天体観察会が定期的開催され、話題の彗星が近づいたときは特別観察会も設けられていた。自分の目で生の天体を観察する機会があると自然への愛着も増し、博物学に興味をもつ人材が育つきっかけになるのではないかとと思われる。年に1~2回でも設定することはできないだろうか？

熊本博物館には「友の会」活動がまだないようだが、現在の状況や今後の見通しを知りたい。

【事務局回答】

「熊本博物館友の会」は平成23年3月31日に40余年の歴史を閉じ、解散しています。

現在の運営方針において、友の会運営の組織化に向けた記述があるが、現時点で具体の検討はしていません。

（高宮委員/学識者/植物）

⑤第2次熊本市生物多様性戦略(2024)では、戦略として望ましい姿の実現に向けた基本戦略と行動計画として、2030年までの行動計画の一部に以下が有ります。

水や酸素、食料や地域特有の文化などが生物多様性からもたらされたもの（＝生態系サービス）と知っている人の割合を32%、生物多様性について学んだことがある人の割合を32%としています。

私は「生態系サービス」や「生物多様性」を学ぶのは、博物館が最良の場所だと考えています。ところがこれらのワードは頂いた資料にはほとんど見当たりません。是非前面に出していただけたらと思います。

（中西委員/学識者/美術工芸）

⑥今回の審議事項からは外れる（次回の審議事項となる）かもしれませんが、議事資料「議事1.」のP9（3）イ、人員体制のうち、令和6年から令和7年の人員は学芸員の1名純減ということでしょうか。資料中に説明があり見逃していたら申し訳ありません。博物館にとっては重要な人員と思いますので、減少の事情を知りたいと思いました。

【事務局回答】

人材育成を目的に令和6年度に2人配置した分野があり、今年度は1名体制に戻したものです。

（小原委員/一般公募）

⑦熊本博物館が持つ多様な分野を活かし、子どもが“楽しく学べる体験”をさらに充実させることが重要であるとする。例えば、プラネタリウムと熊本の民話や音楽を組み合わせたプログラム、御船町の恐竜化石とVRを連動させた体験展示、親子で参加できる郷土クイズラリーや自然観察を取り入れたワークショップなど、熊本ならではの資源を活かした企画により、子どもや親子が繰り返し訪れたい魅力を高めたい。

さらに、子どもが1日ツアーガイドとして活躍する取り組みや、子どもと博物館職員が協力して展示企画を立案する仕組みを設けることで、主体的な学びや体験を促進できる。春休みや夏休みには、特別展示やイベントを集中して行い、バス会社や周辺施設との連携による周遊型の来館促進も視野に入れることで、利用者の増加や地域全体の活性化にも寄与できると考える。（北海道函館市でもそのような取り組みを行っていて、人気不衰）

東京国立博物館においても、親子で楽しめる体験型プログラムやワークショップが利用者拡大につながっており、熊本博物館においても同様の取り組みを参考にできる。社会教育士として、学びの視点を活かしつつ、市民とともに育つ博物館づくりに貢献していきたい。

4. 塚原歴史民俗資料館

沿革

参考：館報 P61

昭和58年（1983年）11月 城南町歴史民俗資料館として開館
平成22年（2010年）3月 熊本市城南町歴史民俗資料館と改名

館名のとおり史跡塚原古墳群に隣接しており、同史跡のガイダンス施設の役割も果たしている。館内には、塚原古墳群からの出土資料をはじめ、城南町時代に収集された数万点にのぼる考古・歴史・民俗分野の資料を収蔵展示している。



資料館全景



考古展示室



歴史展示室



民俗展示室

（1）入館者数

（単位：人）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R6年度	205	255	401	214	871	354	556	408	287	150	270	552	4,523
月別割合	4.5%	5.6%	8.9%	4.7%	19.3%	7.8%	12.3%	9.0%	6.3%	3.3%	6.0%	12.2%	
四半期別割合	19.0%			31.8%			27.7%			21.5%			

〔参考1〕直近2か年の入館者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R5年度	180	285	266	299	550	360	330	353	188	265	568	339	3,983
R4年度	157	265	305	291	259	201	314	317	143	182	325	281	3,040

〔参考〕入館料 大人：200円、小・中学生：100円

（2）資料の収集・保存

① 資料特別利用

- 6/19 新御堂遺跡出土 巴形銅器 1点
大分県立埋蔵文化財センター
- 8/1 新御堂遺跡出土 巴形銅器 1点
巴形銅器模型 1点 上の原遺跡出土 扁平片刃石斧 1点
上の原遺跡出土 柱状片刃石斧 1点
新御堂遺跡出土 磨製石剣 1点 益城町教育委員会
- 8/22 秋只古墳出土 神獣鏡 1点 熊本県立装飾古墳館
- 11/19 隈庄尋常高等小学校 校舎写真 1点
隈庄小学校 150周年企画実行委員会
- 2/26 隈庄尋常高等小学校 校舎写真 1点
株式会社熊本県民テレビ 報道部

② 資料館外貸出

- 9/24～12/25 新御堂遺跡出土 巴形銅器 1点
大分県立埋蔵文化財センター
- 10/15～12/20
巴形銅器模型 1点 上の原遺跡出土 扁平片刃石斧 1点
上の原遺跡出土 柱状片刃石斧 1点

新御堂遺跡出土 磨製石剣 1点 益城町教育委員会
 10/16～2/28 秋只古墳出土 神獸鏡 1点 熊本県立装飾古墳館

(4) 展示

パネル展	事業名：2024【全国巡回展】～Kid's考古新聞コンクール 期 間：10月1日（火）～10月27日（日） 内 容：前年度に引き続き、Kid's考古学研究所主催の2024【全国巡回展】～Kid's考古学新聞コンクール入賞作品展として実施。 同展示会は毎年開催されており、全国の考古学少年・少女のアイデアあふれる内容の作品が並んだ。すべて手書きであり、制作した子どもたちの特色があふれる展示である。
企画展	事業名：第58回肥後しゃくやく展in塚原 期 間：4月28日（日）～4月29日（月・祝） 入場者：48名 内 容：肥後六花のなかで最も古い歴史をもつ肥後芍薬を切り花で展示した。
	事業名：第2回世界の昆虫展in塚原 期 間：8月11日（日）～8月17日（土） 入場者：655名 内 容：熊本博物館が所蔵する世界の昆虫標本の展示と合わせて、三宅貴広氏所有の生体展示を行った。

(5) 通年講座

実績：全20回、延べ参加者総数 481人

[主な実施内容]

古文書講座（10回：296人）、考古学講座（10回：185人）

(6) 体験学習

実績：全8回、延べ参加者総数 130人

[主な実施内容]

編布コースターづくり教室（18人参加）

土器づくり教室（春：20人参加）（秋：19人参加）

藍染体験教室～藍の色は愛の色～（計3回、延べ49人参加）

網代編体験教室（13人参加）、石器づくり教室（11人参加）

〔岩崎委員（社会教育）の意見等〕 ※追加分

1 特別展及び企画展等の開催

博物館は展示をする施設であると同時に、学芸員は研究者でもあります。
博物館は、リサーチし、深く思考する時間が実はすごく大切で、そこから、人間の生き様によって形作られる歴史や、人の周りにあるものの奥深さが際立ってきます。
今のような世の中だからこそ、しっかりと考え、想像することの大切さを発信できるのは、博物館の大切な役割になると思います。
展示をたくさんの人に見てもらうことの価値は、それぞれの展覧会を見ることによって、視野が広がり、人生をおもしろがり、豊かに過ごすことができる人を一人でも増やすことにあると思います。市博は総合博物館なので、自分が興味がなかった分野に目を開くチャンスがたくさんあるな、と感じます。

2 プラネタリウム

熟睡プラネタリウムはおもしろい企画だと思いました。寝て良くて良いなあ。（全国一斉…があるのですね。）
当館でも、今年度初めて「書籍浴」という催しをやってみました。
博物館というと、こども向け、教育施設、というイメージがあって、プラネタリウムも子どもの団体見学に向けたものというイメージが、熊本では強いような気がします。科学未来館のプラネタリウムなどは、大人が見てもワクワクしますよね。
空はいつも身近にあって、歳を取って遠くに行ったりできなくても、気軽に楽しめるツールだと思います。もっと、プラネタリウムのアダルト、シニアファンを増やしても良いのでは…と思います。

3 教育普及活動（館内講座等）

通年の講座あり、他団体との連携したものづくりや、外に飛び出している教室など、多彩な活動が魅力的だと感じました。
ワークショップは、準備段階から終了まで、地味ではあるが意外と時間と手間がかかります。数をこなして、人数を増えることだけではなく、ワークショップにかかる労力の価値と中身を評価してほしいと思います。
これらを博物館の入り口として、ものを考えたり発見することを面白がる子どもや大人が増える大事な機会だと思います。

4 教育普及活動（博学連携事業）

学芸員の館外での活動が充実していると感じます。当館に比べて、教育機関との連絡がとても密であり、市博が愛されていることが羨ましく思います。それぞれの専門分野の学芸員は決して多くはないと思いますが、よくやられているなあという印象です。

5 情報公開

SNSやHPなど、広報に関しては当館も課題です。SNSで発信したから拡散されるかという、そういうわけでもなく、情報の海に埋没してしまうことも多いと感じます。
教育委員会として、学校に対する広報は充実していると思いますが、大人の方への発信をどうしていくのかは、ターゲットを絞る方法を検討していく必要があるのではないかと感じています。

〔小畑委員（学識者/考古）の意見等〕 ※追加分

1. より良い企画立案のための入場者把握の仕方の改変
展示室とプラネタリウムの入場者区分が異なる
海外からの見学者（参加者）の把握
2. 熊本博物館のセールスポイントを可視化する工夫
 - ①HPのスタッフ紹介法の改善
 - ②未収蔵資料の重点的整理と資料収集の重点化
3. 研究紀要の発行 館報から独立した「研究紀要」の発行とその執筆のための研究活動の活性化（学芸員の魅力の発信→館の特徴の顕在化）
4. HPの構成の改良（見やすさ・利用しやすさ）
5. 展示・HPの多言語化への対応（HPは英語P1頁のみ）
6. 天文学専門家の雇用の必要性（入館者の約50%がプラネタリウム利用）

令和6年度事業に対する博物館協議会の総括的評価

前年度事業は、評価の前提となる市場調査が十分でないことや成果指標が不明確であるものの、限られた人員・予算の中で特別展や企画展、館内講座や学校と連携した教育普及活動など幅広い取組を概ね計画通り実施できている。

次年度以降運営方針を再構築するにあたり、喫緊の課題である人材確保や広報の見直しを図りながら、館の魅力向上に向け、学芸員と総務スタッフが一丸となり中長期的な運営基盤を確立させていくことが重要である。